

はじめに ーご挨拶に代えてー

八瀬の里は、京都の市街地から北東部に位置し、比叡山の麓で古くは日本海（小浜）から京の都へ魚などが運ばれた「鯖街道」が通る自然豊かな山間の小さな里です。八瀬の歴史は古く平安時代にまで遡り悠久の歴史を今に伝えています。そんな里にある八瀬小学校は昨年創立140年を迎えた歴史ある小学校で、64名の子どもたちがのびのびと学校生活を送っています。

八瀬小学校は学校教育目標を「八瀬の伝統と文化を受け継ぎ、未来に向かってたくましく進む子」として、八瀬に育つ子としてのアイデンティティーの確立と予測不可能な社会で自己を実現していくために必要な力の育成を目指して、日々教育を進めています。

新しい学習指導要領が公示されました。本校ではそこに示された資質・能力の育成に向けて研究テーマを「自ら学び、ともに学びながら、創造し続ける子の育成」とし、よりよい授業を求めて研究を進めてきました。また、サブテーマを「プログラミング的思考の育成と学習課題の工夫を通して」として、これからの子どもたちにより一層必要となる情報活用能力の育成に向け、教科等の学習を通してプログラミング的思考を育てる授業作りに取り組んでいます。

小学校におけるプログラミング教育の必修化は、道德の教科化や外国語科の導入などと並ぶ新指導要領のトピックです。八瀬小学校には「小さな学校の大きな挑戦」という言葉が受け継がれており、これまでもその時々課題に挑戦してきました。プログラミング教育研究は現在の八瀬小学校の「小さな学校の大きな挑戦」です。本校には取り立ててコンピュータやICT機器の活用には堪能な教員がいるわけでもなく、ましてプログラミング教育に至っては完全に「それって何？」という状態でしたが、「子どもたちに情報活用能力を育てる学校作りのためにみんなで挑戦しよう。」との思いで、昨年より研究をスタートさせました。本日の研究発表会は私たちがこれまでに取り組んできた2年間の研究の成果を一定とりまとめ発表・報告させていただくものです。本冊子にある実践は私たちの試行錯誤の足跡であり、その意味では実践そのものには未完成な部分も多々含まれていると思います。ただ、本日報告します研究成果については、まだまだ研究途上ではありますが、本校の教員一人ひとりが行った実践の結果を真摯に見つめ、みんなで話し合い、そこから得られた知見をもとに少しずつ改善を加えながら辿り着いたひとつの到達点としてご報告させていただくものです。そのことをご理解いただければと思います。そしてまた、本日の研究発表会を契機として次のステップへと踏み出したいと考えています。ご参会いただきました皆様には、様々なご意見・ご教示をいただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、これまでの研究を理論面・指導面およびコンピュータのソフト・ハードの両面で支えていただきました京都市教育委員会各課指導主事の先生方はじめ関係各位に心より感謝申し上げます。

今後とも変わらぬご指導、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和元年11月29日
京都市立八瀬小学校
校長 星尾 尚志

おわりに

本日は、八瀬小学校研究発表会にご参加いただき、誠にありがとうございました。

本校では昨年度から、京都市教育委員会の「新学習指導要領の実施に向けた実践研究事業」の指定を受け、プログラミング的思考の育成を目標に新学習要領を意識した授業の創造と工夫に努めてきました。今年度は2年目の取組として、昨年度に開発したプログラミング体験を効果的に取り入れることができる教科・単元をもとに、さらなる開発を試み、このプログラミング体験が教科学習の課題解決の手立てとなるように、活用法を模索してきました。

今年度も、新しく赴任してきた教職員を加えて、プログラミング実技研修を行い、プログラミング的思考について共通理解を図ってきました。「プログラミングとは？」というところから出発し、プログラミング的思考を育てるための授業をイメージし、実際に授業をするまで、教職員も一丸となって研修を積み上げてきました。

取組を進めていく中で、いろいろな思いや現実が出現してきました。子ども達一人一人が生き生きと活動するためには、パソコンやタブレットの数も子どもの人数分用意したい。去年から今年にかけて、限られた学校予算の中であれこれやりくりして台数を増やしてきました。学校長自らが、「scratch」、
「viscuit」、
「WeDo2.0」等、プログラミング言語やソフトを手作業でインストールし、子ども達が使えるように設定しました。パソコンの調子が悪いと聞けば駆け付けて支援にあたり、手に負えない状況に最終的には教育委員会の指導主事先生にお願いするといった事態もありました。遠隔操作して原因を究明し、修復していただきました。いろいろな課題難題、トラブルを乗り越えてここまで来ました。最近では、「○時間目に△年生でノートPC使います。」「タブレットは、今どの学年ですか?」とどの学年でもPCやタブレット活用が活発になり、休み時間や放課後には、「授業の続きがしたいのでタブレットを使っても良いですか?」と子ども達が自主的にプログラミングに取り組む姿が多くなってきました。少しずつ取組の成果が表れてきているように思います。

この八瀬地域には、昔から大切に守り、受け継がれている文化や伝統があり、子ども達はその大事な継承者でもあります。こうした古き伝統文化を大切に受け継ぎながら、身近にあるコンピュータの働きを生かして、未知の未来においてよりよい生活や社会づくりに貢献していけるようにさらにプログラミング的思考を育成していきたいと思えます。

本日の研究発表会では、これまで私たちが日々試行錯誤を繰り返し、挑戦してきた姿をご覧いただきました。まだまだ課題や改善点はたくさんあると思っています。本日もご参会いただきました皆様から、忌憚のないご意見・ご叱正をいただき、今後の研究に生かしていきたいと思えます。

最後になりましたが、本校の研究推進にあたりましてご尽力いただきました、京都市教育委員会をはじめ関係各位に心よりお礼申し上げます。

今後とも、本校教育活動の充実と進展のために、変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

京都市立八瀬小学校
教頭 中村 茂美